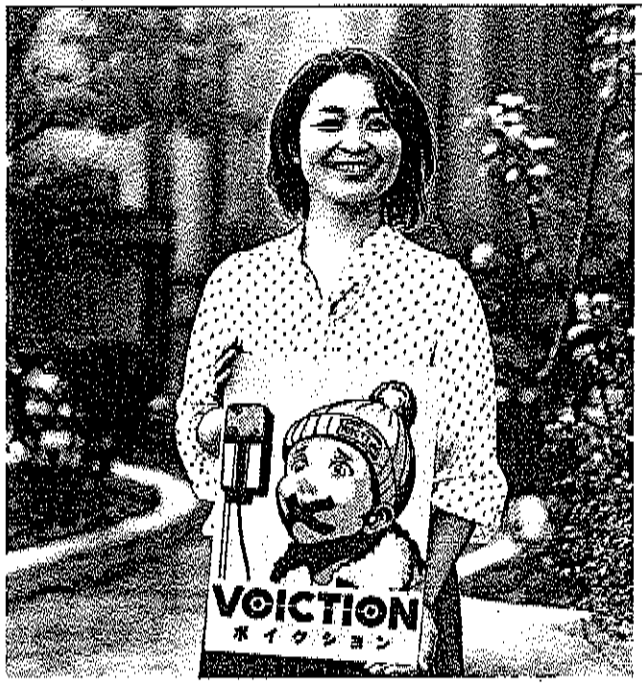
「インボイスは中止に」声あげた思い

「VOICTION」共同代表・声優 甲斐田裕子さん

来年10月に政府が導入を狙う消費税のインボイス（適格請求書）制度の中止を求める声が広がっています。インボイスに反対する声優有志のグループ「VOICTION」を立ち上げた、共同代表で声優の甲斐田裕子さんに声をあげた思いを聞きました。（前田智也）



かいだ・ゆうこ　声優・俳優。アン・ハサウェイやレイチェル・ワイズなど、多くの海外俳優の吹き替えを担当。現在放映中の大人気アニメ「SPY×FAMILY」では、シルヴィア・シャーウッド役で出演。

税制によって仕事を奪い
文化を衰退させてはならない

―声優へのアンケートを実施していますが、どんな実態が分かりましたか。

声優という仕事をしている人は現在、日本に約一万人いると言われています。私たちが取り組んだ声優業界の実態調査では、回答した約7割が年収300万円以下で、9割超が年収1000万円以下の免税事業者でした。インボイスは、消費税の課税対象を広げる増税です。課税業者になることを事実上迫られており、事務負担も増大します。

免税業者のままでいることも可能ですが、その場合は新たに発生する消費税分を取引先が負担することになります。単価の値下げや、取引から排除される可能性も否定できません。そのため、約4人に1人がインボイス導入で「廃業を検討している」と答えています。

実力や才能ではなく、税制によって仕事が奪われる制度を導入することに反対です。

―政治や社会に対して声をあげていくことは勇気がいることだと思います。

私がインボイス制度の問題を認識したのは昨年です。人に会うたびに説明しましたがなかなか理解されず、7月の参院選でインボイスはもちろん今の政治が向かおうとしている方向にストップをかける結果が出てほしいと期待していました。

選挙結果も受けて、いよいよこのままではまずいと感じ、表に出てインボイス中止を訴える覚悟を決めました。声優仲間にも声をかけて、8月3日に「VOICTION」を結成しました。

政治や社会のことについて、より関心を持つようになったきっかけはコロナ禍でした。当時疫病や持続化給付金の手続き不備などで、エンターテインメント業界の存続が脅かされるほどの大打撃を受けたこともあり、国会中継をよく見るようになりました。

政府・与党の不誠実な答弁が繰り返される国会の状況や、そんななかでも私たちの声を代弁してくれる野党議員が党派を超えていることを知りました。検察庁法改正反対や、名古屋入管で亡くなったウィシュマ・サンダマリさんの死の真相究明を求めて、国会議員へファクスを送ったりもしました。

STOP！インボイスが取り組んだ緊急デモ＝10月1日、東京都中央区

―インボイスについて調べれば調べるほど、そもそも消費税という税の納め方がおかしいと感じています。

消費税が導入された1988年の国会議事録を検索して、当時の国会でどんな議論がされていたのかも見ました。

消費税は社会保障・福祉のためだと政府は繰り返しますが、所得のない人からない人へ回すことがあるべき税の姿だとは思えません。税を納めたら仕事ができない、生きていけないというのは本末転倒ではないでしょうか。

政府や財務省はインボイス導入の根拠として「複数税率のもとで適切な課税を行うために必要なもの」と何度も答弁しています。消費税を一律減税すれば、煩雑なコロナ禍や物価高騰などで疲弊している国民生活を守るばかりか複数税率もなくなり、インボイス導入の根拠もなくなります。

声優の仕事は、これまで20～30人の声優がスタジオに集まり、30分のアニメなら約4時間、2時間の映画の吹き替えなら丸1日収録をしてきました。現在は、コロナ禍で分散収録になっています。若手とベテランの交流も減り、マネジャーするスタジオに入れません。一部の人気声優に仕事が集中する傾向も強まっています。

どのように次世代を育てていくかを考えないといけないときに、追い打ちをかけるようにインボイスが導入されようとしています。若手がいなくなり、声優という文化そのものが衰退してしまう危機感を感じています。

―いまエンタメ業界をはじめ、さまざまな人が中止を求めています。

この間、国会議員会館などへ何度も足を運び、インボイス中止を求める陳情をしています。最初は手探りでしたが、与野党の主要な政党すべてと会うことができました。インボイスについて質問してくれるメディアも少しずつ増えています。

私たち声優・俳優らが所属する日本俳優連合（西田敏行理事長）もインボイスの「ストップを提唱する」声明を発表するなど、風向きが変わってきていると感じています。

クリエーターの多くは、日々の生活や作品に向き合うのに精いっぱいで、なかなか政治の動きを知ることができません。とりわけ、若い人ほど声をあげづらい状況です。「中堅」と言われるキャリアになった私たちが、この国に生きる一人ひとりの未来、文化を守るために声をあげていただきたいと思っています。

インボイスの導入延期や負担軽減措置という話が政府・与党から出ています。国会議員への要請でも、「どんな補助金があれば良いですか」と聞かれることもありますが、一番の対策は「インボイス中止」です。私たちは、そのことを繰り返し政治に求めていきます。